未来を開く

青森産技センター報告 ―1

「霹靂」水田ごとに管理

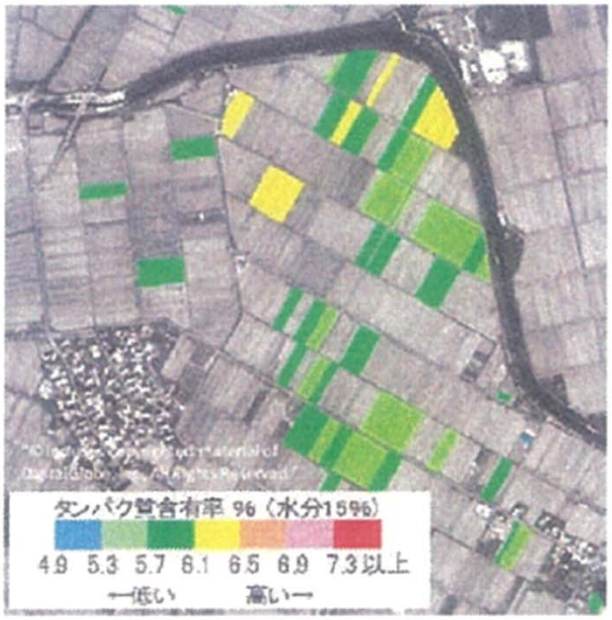
衛星画像で稲作指導

食味と品質、地図で把握

日本穀物検定協会のコメ食味ランキングで特Aに認定された本県の2015年産「青天の霹靂」。国内の有名ブランド米と肩を並べる新品種として注目を集めている。だが、コメの食味と品質を維持するには適切な栽培管理が欠かせない。

そこで、農林総合研究所（黒石市）では、宇宙から撮影した衛星画像を利用して、津軽一円で栽培される霹靂のタンパク質含量や品質を左右する収穫時期を判定し、これを栽培指導に利用する技術を開発。2016年度から、県や農協などが本格的に活用できる態勢を整えた。

タンパク質含量が少ないコメは、ご飯の粘りが強く、食味が良いことが知られており、県は霹靂のタンパク質含量と品質（検査等級）に出荷基準を設けて、高いレベルの食味と品質を武器にしたブランド化を進めている。衛星画像を利用するメリットは、それぞれの田んぼに応じた、きめ細やかな状況把握が可能な点にある。



水田のタンパクマップ（色付き部分が青天の霹靂）

8月以降の稲は、葉の色が濃いほどタンパク質含量が多くなりやすく、収穫時期が近づくと穂が黄金色になる。

これらの特性を利用し、衛星画像から霹靂を作付けした田んぼごとにタンパク質含量や収穫時期を判定する技術を開発した当研究所は、これを基に、タンパク質含量を示した地図「タンパクマップ」、収穫の最適日を示した地図「収穫適期マップ」を作成した。

自分の田んぼでタンパク質含量がどの程度だったかが分かれば、翌年の肥料の調整ができる。また、あらかじめ田んぼごとの収穫日の目安が分かれば、成熟が早い田んぼから収穫を始めるなど、適期に収穫しやすくなる。

そのため、これらのマップは、県や農協などの栽培指導に活用できるよう、パソコンやスマートフォンでも見られるシステムを開発した。

衛星画像を利用した「タンパクマップ」は、田植えが一定時期に集中する寒冷地ほど高い精度で作成できるため、本県は全国的に有利な条件にある。また、「収穫適期マップ」は本県以外で、まだ実用化されていない技術だ。

これらを利用することで、今後も霹靂の高い食味・品質を確保し、ブランド米としての競争力を維持、向上できると期待している。

（農林総合研究所生産環境部境谷栄二）

◇　◇　◇

県の試験研究機関を再編統合した地方独立行政法人として青森県産業技術センター（本部黒石市）が2009年に発足して7年。「あおもりの未来、技術でサポート」を掲げる同センターの研究成果を各分野の専門家が紹介する。

※毎週金曜日に掲載します。

東奥日報　平成28年4月8日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。